

令和5年度

市出資法人

団体自己評価（自己評価シート）

団 体 名：伊賀鉄道株式会社

所管部課名：企画振興部交通戦略課

団 体 名	伊賀鉄道株式会社	[企業会計用]
-------	----------	---------

【経営基本情報】

○団体の基本情報

所 在 地	三重県伊賀市上野丸之内61番地の2				
H P ア ド レ ス	https://www.igatetsu.co.jp/				
電 話 番 号	0595-21-0863	F A X 番 号	0595-21-1070		
代 表 者	代表取締役社長 福嶋 博	設 立 年 月 日	平成19年3月26日		
市 所 管 部 等	企画振興部交通戦略課	市 出 資 額	16350 千円	市 出 資 割 合	25.02 %
団 体 の 目 的	第二種鉄道事業者として、伊賀線の安全で安定的な運行を担う。				

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

事 業 名	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	備 考
(1) 旅客運輸収入(定期外)	61,060	74,656	79,718	
全事業合計に占める割合	22.37%	25.98%	28.25%	
(2) 旅客運輸収入(通勤定期)	37,522	38,165	34,391	
全事業合計に占める割合	13.74%	13.28%	12.19%	
(3) 旅客運輸収入(通学定期)	51,881	57,419	52,909	
全事業合計に占める割合	19.00%	19.98%	18.75%	
(4) (1)～(3)以外の事業	122,537	117,174	115,209	
全事業合計に占める割合	44.89%	40.77%	40.82%	
全事業合計	273,000	287,414	282,227	

[事業の概要]

- (1) 定期外利用による収入
- (2) 通勤定期利用による収入
- (3) 通学定期利用による収入
- (4) 鉄道施設の維持管理に係る伊賀市からの委託料等による収入

○財務概況

(単位:千円)

		令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
正味財産増減計算書	売上高 (a)	273,000	287,414	282,227
	売上原価 (b)	363,155	379,101	379,892
	販売費・一般管理費 (c)	31,344	29,820	26,849
	営業損益 (d) = (a) - (b) - (c)	△ 121,499	△ 121,507	△ 124,514
	経常損益(営業損益+営業外収益-営業外費用)	△ 121,278	△ 119,959	△ 124,180
	当期純損益(経常損益+特別利益-特別損失-法人税等)	△ 5,604	179	△ 365
貸借対照表	資産	551,987	280,883	450,744
	負債 (e)	493,800	222,517	392,743
	資本金(基本金) (f)	65,350	65,350	65,350
	剰余金(累積欠損金)等 (g)	△ 7,164	△ 6,984	△ 7,349
	純資産 (h) = (f) + (g)	58,186	58,366	58,001
	負債・純資産合計 (i) = (e) + (h)	551,986	280,883	450,744

団体名	伊賀鉄道株式会社	[企業会計用]
-----	----------	---------

○財務に関する主な指標

	指 標	計 算 式	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
安 定 性	自己資本比率	純資産／(負債＋純資産)	10.54 %	20.78 %	12.87 %
	流動比率	流動資産／流動負債	108.66 %	121.55 %	112.40 %
	借入金依存率	借入金残高／(負債＋純資産)	9.42 %	0.00 %	0.00 %
収 益 性	売上高営業利益率	営業利益／売上高	△ 44.50 %	△ 42.28 %	△ 44.12 %
	総資産経常利益率	経常利益／資産合計	△ 21.97 %	△ 42.71 %	△ 27.55 %
効 率 性	人件費比率	人件費／売上高	94.48 %	87.10 %	90.54 %
	管理費比率	販売費・一般管理費／売上高	11.48 %	10.38 %	9.51 %

○役職員の状況 (※派遣職員は含まない)

	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	備 考
常勤役員	1 人	1 人	1 人	R5平均年齢: 52.8 歳
うち市退職者	0 人	0 人	0 人	R5平均年収: 千円
常勤正規職員	31 人	30 人	32 人	R5平均年齢: 59.8 歳
うち市退職者	0 人	0 人	0 人	R5平均年収: 4,905 千円
その他職員	16 人	17 人	17 人	
うち市退職者	0 人	0 人	0 人	

○市からの財政的支援など (単位:千円)

	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
委託料	88,714	102,125	101,632
補助金・助成金	98,173	109,906	107,955
負担金	0	0	0
借入金(期中に借り入れた額の合計)	0	0	0
その他市支出金(追加出資額等)	0	0	0
計	186,887	212,031	209,587
借入金残高(期末残高)	0	0	0
債務保証額(期末残高)	0	0	0
損失補償限度額	0	0	0
損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	0	0	0

○団体の目標達成状況等

●中・長期経営計画の策定の有無

有	■	計 画 期 間	10年間	策 定 予 定 時 期	平成29年3月 中間見直し: 令和4年2月
無	□				

●中・長期経営計画による目標及びその達成状況

目 標	令和6年度で経常損益を黒字化する(中間見直し後: 令和8年度で損益を55,000千円に留める)
実 績	

●年次事業計画による達成目標

令和5年度 目標	経常損益 △94,890千円
令和5年度 実績	経常損益 △124,180千円
令和6年度 目標	経常損益 △86,640千円

団 体 名	伊賀鉄道株式会社
-------	----------

団体自己評価結果

- A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる
 B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～59%):改善を要する
 D(0%～29%):大いに改善を要する

	比 率	評 価
目 的	100 %	A
事 業	96 %	A
経営計画	95 %	A
経営状況	67 %	B

団体自己評価表

1. 目的に対する評価

	比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	団体の目的は現在でも社会的要請があるか				①
2	民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か				①
3	市との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか				①
4	事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか				①
5	団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか				①
6	社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか				①
7	市民に対し情報公開・情報提供しているか				①

2. 事業に対する評価

	比率	96 %	評価	A	回 答 欄
1	団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか				②
2	事業毎に目標を設定しているか				①
3	目標の達成状況を評価・活用しているか				①
4	顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか				①
5	顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か				①
6	内部統制は十分に実施されているか				①
7	危機管理体制は十分に整備されているか				①
8	組織体制は十分に整備されているか				①
9	管理費比率及び人件費比率は適正か				①

3. 経営計画に対する評価

	比率	95 %	評価	A	回 答 欄
1	経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか				①
2	中長期経営計画を策定し、運用しているか				②
3	外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか				①
4	中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか				①
5	年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか				①
6	中長期経営計画、年次事業計画は市の方針を反映したものとなっているか				①
7	計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか				①
8	計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか				①

4. 経営状況に対する評価

	比率	67 %	評価	B	回 答 欄
1	収支の状況は健全であるか				④
2	累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか				③
3	財務基盤についての指標は適正か				②
4	収益における市への依存度は適正か				②
5	総資産当期経常増減率は適正か				②
6	開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか				①
7	債権管理は十分か				①
8	借入金返済は可能か				①
9	基本財産や運用財産を適正に運用しているか				—
10	必要な額の特定期間（引当金）が設定されているか				①

※ 回答 ①＝5点 ②＝3点 ③＝1点 ④＝0点とし各部門ごとに比率を算出しています。

比率＝(合計点)／(総回答数×5点)×100

団 体 名	
伊賀鉄道株式会社	
《団体自己評価コメント》	
目 的	伊賀市の公共交通施策の一翼を担う鉄道会社として、伊賀市内外のお客様を安全・安心・正確に目的地までお運びするという目的を全職員が理解し、着実に業務を遂行し、お客様へサービスを提供できている。
事 業	鉄道事業再構築実施計画達成にむけて、利便性向上による定期外収入の確保と運輸雑収の増加に全力をあげて取り組んでいるほか、事故防止対策の推進等によるリスク管理を適切に行っている。
経 営 計 画	鉄道事業再構築実施計画という10年計画の達成状況を4半期毎の取締役会で検証し、必要な施策の立案と実施を適切に行っている。
経 営 状 況	社会的要請による人件費の増大や、物価高騰による取引価格高騰による経費増大により、当期損失は計画よりも拡大し、貴市に多大なご迷惑をおかけしてしまいました。鉄道事業再構築実施計画の達成を目指して、より一層の収入確保および費用削減に取り組んでまいります。
総 括 コ メ ン ト	当事業年度は、定期外旅客が引続き増加を続ける一方、定期旅客の減少の影響が大きく、コロナ禍後に回復傾向にあった輸送人員が再度減少に転じるなど厳しい状況で推移した。 来年度も、テレワークの定着による通勤定期収入の減少や、沿線学校の募集人員減による通学定期収入の減少などで依然厳しい経営環境が見込まれるが、忍者体験施設の開業等新たなお出かけ需要の創出も見込まれることから、ICOCAサービスの浸透やデジタル乗車券・定期券の充実により利便性向上を図り、鉄道利用の促進を行っていく。

【市の審査及び評価結果】

空白：団体自己評価結果と概ね同じ評価

＋：団体自己評価結果に比べて高く評価（良好な点が認められる）

－：団体自己評価結果に比べて低く評価（課題が認められる）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令 和 5 年 度 コ メ ン ト
目 的	団体自己評価	A	A	A	安全・安心を最優先に考えた運行が安定的に実施されており、利用者のニーズに応えた良好なサービス提供により、公共交通に求められる役割を着実に果たしている。
	市の評価				
事 業	団体自己評価	A	A	A	鉄道事業再構築実施計画に基づき、設備の保守を適切に行っている。また、増収のための施策に取り組まれ、他団体と連携し利用促進につながるイベントや商品開発を積極的に企画・実施されている。
	市の評価				
経 営 計 画	団体自己評価	A	A	A	市と伊賀鉄道㈱の2者による定期的な会議を開催し、経営状況や収支改善に対する取り組み等の報告、目的達成のための意見提案を行うなどして、計画的に運営を行なっている。
	市の評価				
経 営 状 況	団体自己評価	B	B	B	前年度に比べ営業費が減少しているが、営業収益・営業外収益も減少に転じており、結果として営業損益の縮減には至っていない。現状分析を徹底し、より一層の収入確保と経費節減に取り組まれない。
	市の評価				

《市の総括コメント》

伊賀鉄道伊賀線は近鉄大阪線とJR関西本線を繋ぐ公共交通の基軸として、市の都市構造の骨格を形成する重要な存在である。公有民営化から7年目となり、交通手段を持たない方々にとって不可欠な公共交通サービスの役割を着実に果たしている。定期外旅客収入が回復基調にあり、新規グッズ開発などにも取り組んでいただいているが、定期旅客収入の減少分を補うには至っていない。引き続き、機を捉えた施策展開による一層の収益確保と、経費節減に取り組み物価・人件費の高騰に対応いただくなど、伊賀線の将来を見据え、鉄道事業再構築実施計画の目標達成・収支改善を目指していただきたい。